

# こちら トゥモロー 編集室

その1

皆さんは、「共同作業所」ってご存じですか？ 働く能力はあっても通勤ができない、また働く意思はあっても職場の環境が整っていない（トイレが洋式ではない等）ために就職できない障害者が通う所です。近年は、障害の重い人たちが自分達の住む地域での昼間の生活の場としての共同作業所も増えてきています。

形態は、身体、知的、精神という障害種別ごとの作業所もあり、また障害種別を超え、様々な障害者が集まる作業所もあります。障害者が五人以上で開設でき、作業内容は規定されていません。昔ながらの内職的な作業からパンやクッキーを焼いている所、ビルの清掃作業を請け負っている所等と様々です。

しかし、法内施設（国の措置費が出る）ではないので、自治体によって補助金の額に相当の開きがあります。神戸市の場合、他の政令指定都市に比べても決して多いとはいえず、ほとんどの作業所が運営面で厳しい状況にあります。全国には五千軒以上（近畿圏だけでも千軒弱）あるといわれています。今回からこのへ

ジを隔月に担当させていただく「共同作業所トゥモロー編集室」もそのひとつです。

神戸の作業所紹介を通して、障害者の視点から普段の生活では気付かない社会の隅っこに隠れた問題や、逆に面白い事柄等を月刊神戸っ子の読者の皆様にお伝えできればいいなあと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

## 作業所じゆずつなぎ 共同作業所「トゥモロー編集室」の巻

JR新長田駅を北に歩いてすぐ、山吉市場の仮設店舗の中にトゥモロー編集室があります。平成十年四月に障害者メンバー五名、職員一名で開設しました。現在、メンバーが六名、職員もアルバイトを含め二名になりました。トゥモロー編集室は、障害者・高齢者に向けたバリアフリー情報紙「トゥモロー」を編集・発行しています。全国的にみても情報紙を編集・発行している作業所は数少なく、近畿圏ではトゥモロー編集室だけだといわれています。それだけに周囲の反響は大きく、マスコミ等にもよく取り上げられました。「トゥモロー」は、季節ごとに二万部を発行しており、長田区を中心とした官公庁・商店街・主要駅・郵便局等に置いて、いつでも誰もが手にとって見られるようになっていきます。体裁は、A



はじめまして！トゥモロー編集室です（手前が筆者）

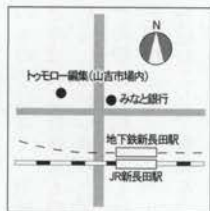
4で十二ページ立て。内容は、車椅子のまま入れる銭湯等の紹介、普段から不思議に思っている事・物の話題、障害者の日常生活を描いた記事等です。読んでいてホッとするような、それでいて読み終えてから少しでも読者に問題意識を持ってもらえようような内容にしていこうとスタッフ全員で取り組んでいます。「トゥモロー」は、編集・発行にかかる費用を全て広告掲載料でまかなっています。これまでに十号を発行し、ようやく常連の広告主が増えてきましたが、最初は五里霧中。初めて広告の依頼で行った商店で、やっと覚えたセリフが飛んでしまい頭の中が真っ白になり、何も言えずに帰って来た事も。また、「どうせ二〜三回で廃刊になるミニコミ紙には広告は出せ

ない」と、断られた事もありました。

それならば、何が何でも十号、二十号と続けようと決意した事を懐かしく思います。今年度からは少し余裕が出てきた事もあり、地元の商店街の取り組んでいる「まちづくり事業」にも参画しています。障害当事者でなければ持っていない意見や提案をして、誰もが住みやすい街を創るために少しでもお役にたてればと思っています。また最近、長田区の社会福祉協議会からの依頼で車椅子の体験学習をするため、区内の児童館や小学校を訪問する機会も増えました。子供の頃から車椅子に馴染んでおけば、偏見や差別は減ることでしょう。これらの事は、他の作業所ではできない、トゥモロー編集室の使命ともいえるものではないでしょうか。これからも、ただ情報を発信するだけではなく、その過程でおきる様々な人とのふれあいを大切にしていきたいと思えます。その中に障害者に対する考え方を変える手立てや偏見・差別をなくすカギがあることを信じて……。

（文責／編集長・吉良和人）

トゥモロー編集室  
神戸市長田区松野通2-2-2  
☎(078) 621-1772





## まちを駆けるエコロジー エコツーリング2000を開催

「エコ」という言葉は、最近になってあちこちで耳にするが、とくに自動車から発生する排ガスの問題は深刻。自動車メーカーもこぞって、低公害車エコカーの開発を行ってきたが、充電時間や走行距離など問題点も多い。電気自動車や天然ガスの自動車の普及にはまだまだ時間がかかりそうだが、携帯電話の波が急速に押し寄せてきたように、エコカーも近い将来、急速に普及する可能性をはらむ。神戸青年会議所環境政策委員会では、9月24日(日)、神戸のまちをエコカーでドライブしてもらおう「神戸エコ・ツーリング」を開催し、一般公募により24組のカップルやファミリー(24台)を招待した。今回用意されたのは、ハイブリッドカー、電気自動車、天然ガス車。とくに電気自動車は、エンジン音がほとんどなく、参加者たちにとっても興味深かった様子。

ドライブコースは、まずは午前8時にポートアイランドにある神戸エコカー本社に集合。そこからス

タート地点の神戸ハーバーランド高浜岸壁まで試験走行。さらに淡路ICから第2神明道路を走って淡路SAへ。そこから六甲アイランドにある関西電力新エネルギー実験センターを經由し、神戸エコカー本社へ帰ってくる。各チェックポイントでは、楽しいゲームも行われた。中には、エコカーにまつわる10問のクイズが出題され、頭をひねる場面も。「電気自動車をフル充電して神戸からどこまで走れるか? (答え: 倉敷150km)」「電気自動車の最高速度は何km/hか? (答え: 125km/h)」など。これらのゲームは、得点表にまとめられ、最終的に「環境優秀ドライバー」が決定された。

車社会に生きる我々。街中でエコカーを見かけても、その価格帯などから実際に運転する人は多いとはいえない。しかし、乗り心地のよさ、燃費のよさなど、一般の自動車では実感できないエコカーツーリングを満喫した。(高橋)



参加者を前にあいさつをする神戸JC寺本督理事長



テレビ番組「筋肉番付」でお馴染みのゲームも登場



環境優秀ドライバーへ寺本理事長から賞品が手渡される



スタート地点ハーバーランド高浜岸壁に集合



いざ出発! 淡路島へ



六甲アイランド関西電力新エネルギー前へ



午前8時、神戸エコカー本社に集まる参加者たち



世界の輝きが香港に集う。アメリカ、スイスと並び世界三大宝飾展の一つに数えられている「香港2000」が、9月20日から24日まで開催された。日本国内では、東京と神戸で国際宝飾展が年に一度開かれているものの、その規模たるや比ではない。45か国から出展者17000名、来場者も1000か国から3000000人が集い、アジア最大の宝飾展としても知られている。パールシティ・コウベからも田崎真珠、森パール、タカハシ・パール、今啓パールなどが出展。

近年、中国の淡水真珠の生産量が飛躍的に伸びているが、日本のアコヤ真珠もその勢いに押されきみ。米を作るような感覚で水田で養殖される技術は、もともとは日本から伝わり、アコヤ真珠を席巻するにまで成長した。その勢いは取引方法にもよく表れている。アコヤ真珠は一粒一粒品定めできるように数珠繋ぎにして陳列するのに対し、淡水真珠はビニールにつめ込まれて取引される。淡水と海水は光沢感が違うが、品質より低価な真珠を求める風潮が高まっている。

今回、神戸の真珠業者(有)イソワ・パールの皆さんに同行させていただくことになった。「淡水の数にはかなわないが、アコヤ真珠は品質で勝負するしかない」と4代目にあたる磯和社治郎さん。初代は御木本幸吉氏とも交友があり、父親の代に神戸へやって来

た。付加価値の高いアコヤ真珠は世界でもはやされ、国際港で栄えた神戸は利便性がよかつたからだ。今回参加した8名のスタッフは、昼食をとる間も惜しんで、訪れるバイヤーにアコヤ真珠の魅力をアピールする。この5日間にかける意気込みたるや相当のもの。出展ブースは5つのホールと2つの通路に分類される。ダイヤモンドをあしらった蝶や花の作品、24金でつくられた2メートルもの仏像。またポर्टレイトをコピーすると、そのまま金板にコピーする機械も紹介され、驚きの連続であった。

午後6時にすべての取引が終了すると、イソワ・パールのスタッフも精根を使い果たしたといった表情。夕食をご一緒させていただくことになり、地元でも人気のレストランを案内していただいた。300名ほどが入っているだろうが、ホールは超満員。机に脚だけついていて、人数に応じて大小のテーブルをはめ込むだけ。これなら行列をなすお客さんにスピーディに対応できるという寸法。香港には、来客があれば大勢で外食する習慣があつて、時間を忘れて歓談する。この活況ぶりが深夜12時近くまで続くそうだ。メインストリートのナイザン・ロードにも若者たちの活気が伝わってくる。

香港といえばショッピング。イソワ・パールただ一人の女性スタッフ道田あづささんは、かなりの香港通で力

## HONG KONG 2000

### アジア最大の宝飾展

# “香港2000”に 香港のバイタリテを見た!



(写真上) 英国からはメタルのロールスロイスも登場!  
(写真右) これが全長約2メートル、24金の仏像



(写真上) イソワ・パール4代目にあたる磯和社治郎さん  
(写真左) イソワ・パールのスタッフの皆さん



世界100か国から来場者が訪れるとあってパソコンをつかった売買も



Hong Kong Pavilion

香港館

Fine Design Pavilion

Hong Kong and International Companies, Antique & Estate Jewellery Pavilion, Belgium Pavilion

香港及  
國際廠商  
古董首飾館  
比利時館

Haly, Germany, Switzerland, France, Israel Pavilion, Hong Kong and International Companies

Creation Zone-Designer Section

Equipment, Packaging & Technology Pavilion

意大利、德國、瑞士、法國、以色列館、香港及國際廠商

Creation Zone-Designer Section

機械、包装及科技館

Thailand, Taiwan, Japan, Korea, Brazil, Sri Lanka, China Pavilion, Hong Kong and International Companies

泰國、台灣、日本、韓國、巴西、斯里蘭卡、中國館、香港及國際廠商

Hall 2 & Hall 5, Hall 3  
展覽廳 2 及 5・3

TRADEERS

Overseas Visitor  
海外參觀人士

会場となった香港エキジジョン・センターのエントランス



森真珠香港有限公司  
SHIN YU JEWELLERY HONG KONG CO. LTD.  
(写真上) アコヤ真珠の魅力アピールする(タカハシ・パールにて)  
(写真右) 森パール、森社長の姿も  
(写真左) 田崎真珠は、会場入り口付近に8区画分のブースを出展



強い助っ人。「女性スタッフが喜びそうなお土産は？」と尋ねると、ほんの小さな時間ほどで、美肌によく効く化粧品や衣料を捜し出していただいた。もちろんディスプレイも。最後に「他の店も見えて来ると、さらに値切る道田さんの常套手段には驚かされた。いや助けられた。かつてアジア最大の貿易港といえ、一位横浜、二位神戸だった。しかし、今はシンガポール、香港にその座を奪われた。世界各国との貿易を奨励するために、海外企業に関税を課さないエントナープライズゾーン(自由貿易地区)の整備など、国際市場をターゲットにした香港政府の思惑通り、お馴染みのブランド店はじめ外資系の企業がこぞって進出している。港を見渡してもピラミッドの如くコンテナが積み上げら

れ活ぶりが伝わってくる。2年前に開港した香港国際空港も国際港部に恥じない規模を誇る。滑走路2500メートル1本の神戸空港をつくるのに半世紀を費やした神戸が情けなくなる…「香港2000」の会場でビクターという名の20代半ばの青年を紹介された。彼は英語、広東語、北京語、日本語を操り、香港を拠点に世界の市場を飛び回る。彼に代表される国際感覚に長けた青年たちが香港にはあふれている。彼らに国内や国外といった枠はなくグローバルに物事を考える。話も希望と自信に満ちあふれている。香港のバイタリティは彼らによって創出されているようにも感じられた。最後にイソワ・パールの皆さんをはじめ通訳をくださった花井俊夫さんに心よりお礼を申し上げます。(高橋)



取引を終えて、スタッフの顔にも満足感があふれる



# ミステリーグルメ

## 神戸篇

### ONE DAY LILY

—そして神戸—

ウドノ葉生子



神戸交通センタービル。9Fに松酒家がある

**横** 田一族に、関西ホテル業界の輝けるプリンス中内仁社長、神戸経済界で豊富な人脈を誇る実力者、渡辺忠男顧問を改めて紹介する。

「ようこそ、神戸へ。なんなりとお申し付け下さいませ」事件を知る両氏だからいたわりをこめて挨拶を交わしあっている。

夕食はかつて神戸を代表した、大正6年創業の国内でも有数の名料亭だった「松酒家」に予約を入れていた。この店は東京進出も活発で、紀尾井町大京ビル1階で料亭「紀尾井町松酒家」を、赤

坂東急ホテル3階では神戸肉と日本料理の「花くま」を、赤坂みすじ通りではバー「ブチ花くま」、赤坂東急ホテル地階で「赤坂松酒家」とナイトクラブ「ハーバーライト」、札幌東急ホテルで「札幌花くま」と多方面に活躍していたが、阪神大震災で本店が全壊したことで不況での営業不振もあって現在は原点到に戻り黒字店であった「赤坂東急花くま」もあえて閉じ今、花隈から神戸交通センタービル9階の「松酒家」(078・333・0678)へ本店が移転し、料亭から懐石料理店へ衣替えしている。3代目のセイチャンこと征二郎オーナーは、立教大の経済学部を中退して大阪高麗橋の「本店吉兆」で修行した変わり種で、ニューヨーク日本総領事公邸の料理長もつとめあげ現在音楽プロデューサーのかたわら神戸交通センタービルの「松酒家」でも料理監修をしているので、横田一族にはきつと喜ばれるだろう。何せ口うるさい一族だもんなあ。ともかく今夜は楽しみである。

今宵の料理は「ステーキ懐石料理フルコース」である。極上の厳選された神戸肉が一口ステーキとなつて目の前に運ばれてきた。「あらっ、美味しそう！」女性の声があがる。波留菜だ。趣味は男とグルメと言っているからさもありなんである。レアに近い焼き方であるが年配者が多いためか脂質を少な目にして隠し味にハーブをきかせている。

「さすがですねえ、神戸にこんな美味しいものがあるって」義充の声が近づいてくる。

「ところで、ジュリアンさん。この後どちらかへ案内してくださいね。それが楽しみだったんですから」  
「うーん。義充さんの好みを知らないからお気に入り

るかどうかわからないが、そうですなえ、花隈の美人芸者がやっている店が2、3あるんです。佐久間良子を若くしたような感じで鈴乃さんといましてね、店名は「らうんじ内田」(078・391・3866)。こちらはカラオケがあるし、美人ママなのになちよつととぼけた雰囲気を持っていて実に楽しい店です。同じビルの階に「土」(078・321・4567)。こちらは三浦布美子に似た花千代さんと江戸っ子的雰囲気の人己さんで辛口の会話も楽しめるバーと言えます。あと、芸者さん以外では老舗名門バーだった「ムーンライト」出の若杉ママ



の「ニュームーン」(078・331・9534)



(写真上) らうんじ内田の鈴乃ママ  
(写真右) ピンの餅井幸子ママ

アットホームな感じでカラオケもあります。他に元氣な店は「ニコレ」(078・392・7335)、「伽羅」(078・332・0022)、「花屋敷」(078・391・8679)かな。

小さくて賑やかなのは「夢舞台」(078・332・0892)、「花水木」(078・322・1887)、「KISS」(078・321・0399)と山本通りの賑やかな酒豪揃いの「オールド・コウベ」(078・221・1404)かな。グレイドで言えばダントツに美女が多いクラブは「薔薇と薔薇」(078・392・3333)、「オーナーは茂山登美子さんです。ここは僕の器量では無理なんでお勘定は義充さん、よろしく。一流の銀座並みの値段です。他に落ち着いた感じのラウンジ的雰囲気の「コート・ダジュール」(078・331・1228)かな。変わった店では香港出身の文愛華ママがハスキーボイスで酔わせるジャズカラオケバーの「鹿鳴館」(078・391・5910)や、宝塚出身のママと軽妙洒落なマスターの「珍地理屋」(078・242・0288)そして大御所正統派カクテルハウスと名付けた老舗名門バー「トム・キャンティ」(078・331・2122)のオーナー榎晴夫マスターとは古いダチだし。そうねえ、トリには神戸経済人の穴場「ピン」(078・331・1353)かな。オーナー餅井幸子ママの知性的雰囲気が漂うシンプルさがいい。ああ、これだけ一気にしゃべると、しんどい！しかし、まだ、いいバーを落としていると思うんだぞ」



「いやあ、たいしたもんですよ。これだけの店を掌

握できるっていうのはなかなか」

「これで、もてないんだから」

「またまた、ご謙遜を」

「いや、ほんとですよ。この世界、金がなきゃ面白くないですよ。一杯のお酒を時間をかけて飲むなんて野暮ってもんです。それだったら家で一人淋しく飲んだ方がいい」

「ジュリアンさん、今日は僕に払わせてください」

「そうですか、正直、助かります。お金持ちを差し置いて失礼なことはいたしません。お言葉に甘えて」

「じゃあ、そういうことで」と笑いながら義充は離れていった。

「ねえ、義兄と何を話していたの」

「ああ、後でバーで飲もうという約束」

「フーン。事件の解決をしないで飲み歩いて大丈夫なの」波留菜の目がキツイ。

「そうなんだけど。まだ五里霧中だからね、犯人が自首してくれたら助かるんだけど」

「また、冗談言って」

「ところで、義充さんをそんなに嫌いな」

「そうよ。陰湿だもん。私、二重人格の人は大嫌いな」

「でもね、波留菜さん。人間、皆、ジキルとハイドなんですよ。この僕も。あなたも」

「理屈はわかるけど、直感的にあわないの」

「波留菜さん、話の腰を折って悪いけど、画商の恋人はドイツ人でしたよね。もう、連絡をとって会われましたか？」

「残念でした。まだ、会ってない。ご存じでしょうが彼は妻子持ちだからね。私のスケジュール通りにはいかない。しよせん、私は愛人兼援助者。だから、



彼の会社に投資しているの」

「じゃあ、彼はお父さんと気があったんじゃないですか。同じ美術愛好者として」

「ウン。だから、彼のために父に頼んだの。生前贈与として絵を頂戴って。娘を愛しているのならくれたっていいじゃない」

「断わられた」

「あっさりね。お前は男を見る目がないって」

「その通りですか」

「そんなことあるわけないでしょ。でも、私の知らないところで父は彼と会ってるみたい。彼が私の留守中にうちに出入りしているの。父があんなに毛嫌いしていたのに……なんだろう。彼に聞いたら私に会いに来たって言うの。留守だってこと忘れてたって」

「お宅の地下室に、世界的な美術品が保存されているのをご存知でしょ」

「噂で聞いたことはあるけど、どこにあるか知らない。うちは要塞みたいで守りが堅いわよ」

「お手伝いの君子さんから聞かれたことは」

「エッ、彼女は知っていたの」

「ええ」

「フーン。実の娘に隠して。どうして言わないんだろう」

「信用できないからでしょう」

「あら、言うわねえ。父は昔、ドイツで仕事をしていたらしいのよ。軍事関係みたいよ」

「そうですか」これはじっくり調べてみる必要がある。

「ねえ、波留菜さん。恋人の名前はたしかハインリヒ・フェザーさんでしたね。どこで知り合ったんで

すか」

「フーン、たしか、イギリス大使館のパーティーで思い出したわ。父に頼まれてね、母さんが行きたくないと言うんで急遽付き合ってくれって」

「そうですか」

「ねえ、ジュリアンさん。義兄はいやだけど、飲みに行くときは一緒に連れて行ってね」

「いいですよ。僕は」

「後でね。忘れないですよ」

「足早に去ってゆく彼女にディオールのイブニングドレスがよく似合う。薄色のピンクシルクが彼女の背に向かって、春の風のように優しく追いかけている。美しすぎる。その時、初めて波留菜の恋人に妬ましい感情を持ったことに僕は思わず驚いていた。

「いやあ、ジュリアン。いいなあ。美人のお友達がいて」

「あれっ、これは、これは。河西さん。今日はどうしたんですか」

「何言ってるの。この松道家でさ、鈴木さんと一緒に食事してるの」

隣の部屋に行ってみると、日本経済新聞社大阪本社の鈴木誠二編集局長が干物の焼き物で日本酒を、向かいの席には「ヘキュリー夫人」と名付けられた焼酎が置かれている。これは神戸支社長河西敬一さんのオーダーであろう。

「おやまあ、実力者お二人で」

「部下が優秀だから二人で油を売ってるのよ」と河西さん。

「しかし、なんだい。横田一族の大移動じゃないの」興味津々の鈴木さん。

「さすが、ブンヤさん。よくわかりますねえ」

「わかるさ」2人が同時に深く頷く。

「そうだ。いいところへご両人だ。ちょっと教えてもらいたいことが」

「安くないよ」

「わかりました。今日の分は僕がご馳走しますよ」

「おや、急に金回りが良くなったねえ」

「つたく、相変わらず口が悪い。実はですね、横田さんはドイツとどういう関連があるんです」

「おっと、きなすったねえ」

「やっばり、何か」

「そうだよ。ヒットラーが秘匿していた美術品に關係しているという噂があって、今もってその隠し場所が発見されていない。あのおっさんはね、ひと皮剥けば武器や古美術の売買にもからんでいる厄介な御仁らしい。まあ、死んでしまったから一層、謎が残るけど……。しかし、ジュリアン、今回の事件は気をつけた方がいい」

「フーン。そうですか。ところで、警視庁一課のコバさんも一緒なんで」

「えっ、彼もいるの」と鈴木さんが呻く。

「だったら彼は知っているだろうに」河西さんが笑っている。へまったく、コバさん。そりゃあ、ないでしょうに」心の中で思わずつぶやく。(つづく)



### ウドノ葉生子

作家、TVイベントプロデューサーなど多様に活躍中。月刊神戸っ子に「松濤家ものがたり」連載。若者向け著書「音声多重面白構造」(三水社)で人気を集める。最近作「ああ、万事塞翁がお・ん・な」(文園社)では神戸花隈の花柳界の歴史を綴る。ラジオ日本「ウドノヨーコのざっくバラエティ」のパーソナリティを阪神・淡路大震災まで務める。

やんちゃで食いしん坊のコウコウと  
はすかしがりやでおとなしいタンタン  
2頭のパンダが屋外で待っています！

# 神戸市立 王子動物園



愛きょうたっぷりの2頭のジャイアントパンダが7月に神戸にやってきて、はや3か月。コウコウ(興興:4歳、オス)とタンタン(巨巨:5歳、メス)は、今ではすっかり王子動物園の人気者です。

2頭のしぐさに、訪れた子どもたちは大喜び。日中共同飼育繁殖研究のために神戸にやってきたパンダですが、震災で傷ついた子どもたちの心を励まし、元気づけることにも一役買っています。

もともと高山地帯にすむパンダだけに、暑さに弱く、夏の間は屋内運動場での姿が見ることはできませんでした。しかし、秋になって涼しくなった今では、屋外で元気に遊ぶ2頭を間近に見ることができます。ぜひ、ご家族そろってパンダに会いにきてください。

このほかにも、ヒツジ・ヤギ・ウサギなどの小動物と、じかにふれあうことのできる「動物とこどもの国」や、トラ・ヒョウ・ライオンなどの猛獣を間近に見ることができる「円形猛獣舎」など、見どころはもりだくさん。約180種・950点もの動物たちを、見やすいように、さまざまな工夫もこらしています。

●開園時間:9:00~16:30(3~10月は17:00閉園、入場は閉園の30分前まで) ●休園日:水曜(祝日の場合は開園)、12月29日~1月1日 ●入園料:600円(中学生200円、小学生以下無料) ■問い合わせ:神戸市立王子動物園 ☎078-861-5624 <http://www.jin.ne.jp/kobe/ojizoo/>



電車・バスを利用してください。JR「灘駅」から徒歩約5分、阪急電鉄「王子公園駅」から徒歩約3分、市バス90・91・92系統「王子動物園前」下車すぐ



佐本  
産科

## ママといっしょに



あかちゃん:三ツ池 <sup>ゆうや</sup>雄哉くん  
(平成12年2月27日生まれ)

パ パ:春樹さん

マ マ:晃子さん

「大きな心で元気に育ってネ」

★佐本産科・婦人科★  
佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15  
TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)  
市バス上沢4 停南スグ  
●駐車場完備●



# 竹久夢二

## 「四つの恋のものがたり」

〈その十八〉「黒猫の女」に、お葉嫉妬す

中右 瑛

「なぜ、お葉は家出したのだろうか」。大シヨックを受けた夢二は、お葉のことを回想するのだった。お葉はわがまま、気まま、自由奔放に夢二に甘えた。父と娘のようだった。

菊富士ホテルのアトリエにモデルとして通いはじめて間もないころ、お葉は気に入らないことがあつて

「モデルはいや……」

とダダをこねたことがあつた。アノ夢二最高傑作といわれる「黒船屋」を制作中のことだった。

「黒船屋」と記された櫃に座する黄八丈の着物を着た妖艶な女性が、大きな黒猫を抱く。匂いたつ色香、白いおしろい、猫の黒いシルエット、世紀末デカダンスの蠱惑なムードが漂う。

ネコは不倫の恋をとりもつという。多情な夢二らしい発想である。余りにも強烈な印象、大正九年ごろの制作。お葉は完成した「黒猫の女」を見て、一瞬とまどつた。

「彦乃さんに似ている……」

これはお葉の単なる嫉妬心だけではない。確かに彦乃に似ている。その頃の夢二は、直前に死んだ彦乃に最も心を奪われ、お葉がモデルであつても彦乃を描いた。お葉は、彦乃に似た「黒猫の女」に

強い嫉妬の炎をもやすのだった。

余談になるが、この「黒船屋」は、実は外国画家の作品をヒントに描かれたことはよく知られている。

二十数年前、私はポストン美術館にほど近いスタンプ屋で一枚の絵カードを手にしたときは一瞬、目をうたがった。それもそのはず、そのカードの絵は「黒船屋」のヒントに使われた幻のモデル画であつたからだ。

今までのモデル画はキース・ヴァン・ドンゲン (Kees Van Dongen フランス一八七七—一九六二) の作と伝承されているが、題名、来歴、夢二がこの絵を何で知り得たか? などまったく不明で、そのことが夢二研究の課題でもあつた。

『別冊太陽・夢二特集号』(昭和五十二年九月平凡社発行)では、この画は「マリー・ローランサンの作画」と記し、夢二はこの絵の写真を手製のスクラップ帖に収めていたと解説している。

さて、私がポストンで手に入れた絵カードには、作者名、題名、制作年、そして来歴が記されていた。

作画者はローランサンではなく、確かにキース・ヴァン・ドンゲン。題名は「ウーマン・ウィズ・キャット」(Woman with Cat 一九



夢二の名作「黒船屋」の切手



○八年油絵。

加えて、ハリー・リンデ・ブラドリイ (Harry Lynde Bradley) 氏から一九七五年にミルウォーキー美術館に寄贈されたと、記されていた。

私の追跡調査では、日本でこの作品が紹介された最も早い例は、大正六年九月号『美術』であることもわかった。

これにより不明な点が全て解明されたことになる。

それでは、ドンゲンとは如何なる画家であったのだろうか？

ドンゲンは一八七七年オランダ生まれ、二十歳のときにパリに出



キース・ヴァン・ドンゲン筆「ウーマン・ウィズ・キャット」(1908年)  
夢二の「黒船屋」はこれをヒントに描かれた

て、モンマルトルで下積み生活を過ごした。そこで、ピカソ、マチス、ブラマンクらと交友し、一九〇五年、マチスを中心とするフォービズム(「野獣派」とよばれ、情熱的な激しい絵)の旗揚げに、ドラン、ルオー、ブラマンクらと参加した。そのうち、第一次大戦の一九二〇年代には、フランスの名士や女優たち、上流社会の人たちの肖像画を描き、パリで一番の売れっ子となり、社交界でもはやされ華やかな生涯を過ごす。一九二九年、フランスに帰化し、晩年は南フランスのコートダジュールに定住。一九六一年、八十四歳の高齢で亡くなった。

彼の絵はどこか官能的で、フォービズムの血が騒ぐ。淡い色調で描いた婦人像は優雅で佳き時代のパリの雰囲気が色濃く漂っている。

この作品は彼の三十一歳(一九〇八年)のときのもので、ちょうどフォーブの画風が高まりつつある時点の、記念すべき作品ではなからうか。モデルはモンマルトル近くのうらぶれたバー「黒猫」のマダム。不思議なムードを醸し出している。

夢二がこの絵にひどくひかれたのも当然であろう。夢二はただ単に模写するだけではなく、浮世絵風に自分のものにしたのだった。

■中右 瑛(なかつ・えい)

抽象画家。浮世絵・夢二エッセイスト

1934年生まれ、神戸市在住

〔受賞歴〕行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵研究の功績により浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。

現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書に、抽象画集「シエート・リンド/ミラクルブルーの世界」(浮世絵ミステリー雑誌)、「写楽は18才だった!」(忠臣蔵浮世絵)、「豆本・夢」(黒猫絵評)がある。



# ZOOM IN ZOO

NO.402



実録 王子動物園史

亀井一成の  
ズームインズー

＜ライオン誕生に沸いた開園3年め＞



① 生後2か月のライオンの赤ちゃん

ガツーンガツーン  
鉄の大ハンマーで杉丸太を打ち込んで台を作り、クロヒヨウの箱オリを置いて見せる。仮設の猛獣舎を作ったのです。

1951年3月20日、王子動物園を開園したものの諏訪山から連れてきたゾウ2頭の飼育舎も木造で、ニホングマ、ヒグマの子はオリを台の上に置いて見ていただくという、まさに移動動物園そのまま。そこへ、クロヒヨウ2頭とヒヨウ2頭が相次いで到着しましたが、飼育舎がないので、ニホングマの横に並べて急ぎよ丸太台を作ったのです。戦前飼育係だった吉岡氏と、20才の若者は私ひとり。それに東郷、藤本、真崎、大辻、国延、亀山、池田各氏は、1950年に開催された神戸産業博覧会のガードマンだった方々で、飼育現場の仕事にせいっぱい協力くださったのです。身分は臨時職員で、若い現業職の私を「ボスのカメイさん」と。危険で汚い飼育作業を、みなさん50才を越えた体力で、ずいぶん無理な仕事をやったこと忘れないですよ。

ヨイシヨ、ヨイシヨ、きをつけろ！

クマのオリもクロヒヨウのオリも、みんな「人力」で運び、台の上に乗せたのです。フォークリフトもクレーンも、何もなかった時代でした。

待望のライオン到着は開園2年め

「クロヒヨウは荒いから、手が出ないように金網を張っておけ！」

諏訪山時代からの松村副園長の大声、開園当時の王子動物園には、初代園長もまだいませんでした。そして開園2年めの1952年4月、垂水区長だった山本吉之助氏が初代園長として就任されたのです。

いよいよ、待望の猛獣舎が旧諏訪山動物園から鉄骨材をそのまま移設完成し、ケニヤからオスが、メルボルンからメスが到着。

強大な鉄骨でできた猛獣舎は4室。

「ライオンとトラは中央の2室だ！」

さてヒグマとニホングマを東端か西端の部屋が決まりませんでした。

「クマはクマ同士並べた方が」エサやりも便利だと言いましたが、結局は両端に入れることになりました。

そのことが、後にヒグマの子が隣りのライオンに両前足を咬みちぎられるという悲惨な事件になったのです。

ガオ！ ガオ！

ライオンとトラの荒々しさは想像を絶するもので、今日の動物園育ちのライオンやトラにはないものでした。

ライオンのオスは「ケニー」、メスは「メル」と名付け、飼育をはじめたのですが、ウ・ウ・ウ、部屋の隅に伏せ





① 1953年当時、生後1か月のライオンの赤ちゃんにミルクを与える筆者

たまま、どつきりを与えた馬肉を食べません。ガオ！立ち上がっては吠えたて、ガツーン！鉄格子に顔を強打、鼻や口から血を流す始末でした。稲わらを山盛りに入れ、ヨシズで暗くすることでやっと落ち着いていたこと忘れられません。

## 王子動物園初、ライオン誕生 に沸く1953年12月10日

アフリカ原産のライオンだから、冬に産むことはあるまい、は、ちがつていました。

ライオンはネコ科動物として、単独

ではなく群れを作っていますが、夫婦に子どもという家族群（ファミリー）ではなくて、オス1〜2頭にメス1〜4頭とその子ども、計12頭位の群でいます。こうしたライオンの群をプライドと呼んでいます。しかも熱帯から亜熱帯にいますので夏が繁殖期だと50年前には考えていましたが、飼育して、年中子を産むことが分かったのです。

初代ライオンが9産、2代め4産、

3代め4産の記録からでも、

冬（12〜2月）6産

春（3〜5月）2産

夏（6〜8月）3産

秋（9〜11月）6産と年中の繁殖であった。

交尾は馴致とともに日中屋外で見られるようになり、妊娠期間は、出産日から逆算することで、約105日〜109日であることが分かった。

ところで荒々しかったことと逆に母性は強く、初代のメスは9産18頭中の16頭の子どもをすべて母乳で育てたのです。

しかし、開園16年めの2代めライオンのメスからは、どうしたことか育児放棄が多く、何度哺乳ビンでヤギ乳を飲ませて育てたことか。ちなみにライオンでは5回、トラでも5回、人工保育で育てたのです。

乳のよく出るヤギ（ザーネン種）を、開園当初は常に3〜4頭飼育、毎日台の上に飛び乗らせ、手しぼり搾乳の実演を見せ、煮沸したヤギ乳を学童たちに飲ませたり。さらにヤギの棒杭渡り

やブタオザルにとんぼ返りや竹馬乗りをさせ、やんやの拍手。今でも耳に残っています。



① ライオンの赤ちゃん誕生に動物園は沸きました

亀井一成先生が撮影した  
写真を5名様にさしあげます  
(亀井さんの直筆サイン入り!)



ご希望の方は、ハガキかFAXに住所・氏名・このページの感想、または亀井先生へのメッセージを書いて下記までお送り下さい。

〒650-0011 神戸市中央区下山手通2-13-3  
建創ビル4階  
月刊神戸っ子「ZOO」係 FAX 078-331-2795  
(11月30日消印有効)



# 有馬歳時記

シリーズ—人と出逢える街・有馬(11)

「使い方」なんてない、出入り自由なもの、  
それがおもちゃ

おもちゃデザイナー— 加藤 裕三さん



木のからくりおもちゃを披露する加藤さん。有馬の工房にて



温泉会館わきの坂道を少し上がると、木のぬくもりあふれるお店がある。トイズミュージアムショップ「ALLI-MALLー」、ドイツやイタリアからやってきた木製のおもちゃが並ぶ。店長でおもちゃデザイナーの加藤裕三さんは、「ご自身が作った木のからくりおもちゃを前に、その思い入れを語ってくれた。

「『ことばあそび』っていうのはいちばん高度な遊びで、その前におもちゃ遊びがある。たとえばはしご車がどんなものか子どもに教えるのは難しいけれど、はしご車ってこんなものよ、とおもちゃを見せて対話ができる。おもちゃというのは、言葉を手助けできる、言葉の始まりのものだと思っんです」

加藤さんは大阪生まれ。文字を読む前から近所の貸本屋に通い、建築士だった兄に影響をうけた。学校の「左脳に刺激する」授業は苦手だったという。

ヒッピーブームや横尾忠則の世界と出会った高校時代、「勉強は一夜漬けでなんとかしのいで卒業」した後、加藤さんは大阪万博の会場建設のアルバイトをする。「あの『太陽の塔』の建設現場にいたんですが、東北から出稼ぎに来たおっちゃんたちと高いところで一日中働いていた。

露天風呂とご昼食  
ひさご弁当

兵衛  
向陽閣

TEL (078) 904-0501(代)

有馬温泉月光園  
GEKKOEN

湯麩館  
KOROKAN  
TEL (078) 903-2255

姉妹旅館 游月の荘  
TEL (078) 904-0366

テニスでいい汗  
いい湯にとっぷり味に集う

ARIMA  
SUNNY SIDE UP  
TENNIS CLUB  
TEL (078) 903-1024



攝津有馬  
壱所坊

TEL (078) 904-0551

静寂さにつまれた  
くつろぎの宿

国際観光旅館

陵楓閣

TEL (078) 904-0675  
TELEX 5627-115



ちやうど左肩のあたり。おっちゃんたちは平気でそこからおしっこしたりしてただけ、もう右往左往しながら作ってね、1970年に万博が開幕して、直前に見に行ったらすぐきれいな会場ができてあがつていた。それを見たら、こんな繁栄なんていうのは、うそっぽいやな、と思えてきたんだけど、その経験が今モノを作る核になっていると思いますね」

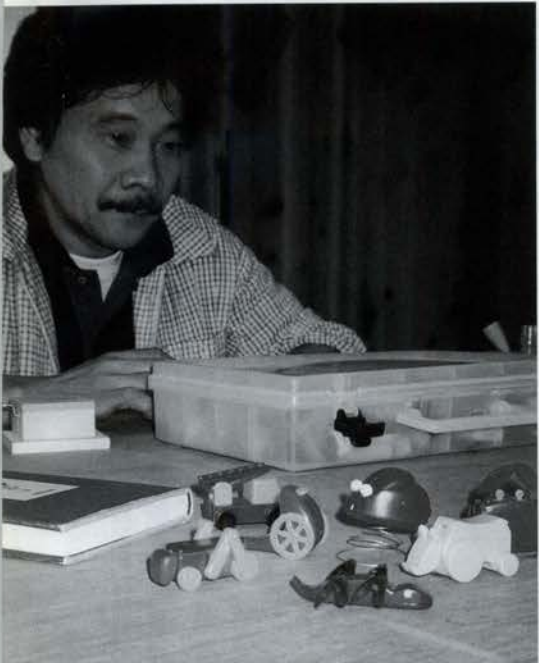
おもちゃの仕事に出会ったのは自身に子どもが生まれてから。「それまでデザイン事務所で働いたり信州白馬の彫刻家に弟子入りしたりして学んだことを日常に戻したいと思った」。クラブトゥームに乗り、木のおもちゃメーカーを設立、しかしヨーロッパからの木のおもちゃはコストが高くなり、「それでは子どもにおも

やが届かない」と断念。「元来、おもちゃは無料のもの」と、みんなが遊べる幼稚園の庭を造った。

1986年ごろから、グリコのおまけをデザイン、制作する仕事も始めた。「お母さんと子どもが話ができるおもちゃ、男の子むけと女の子むけが分かれていないおもちゃ、世の中に提示するおもちゃ」を心掛けたという。

「子どもの心の無意識にどう働きかけるか、がおもちゃのむずかしいところでもあり、おもしろいところでもある。そのおもちゃがどれだけ開かれているか、出入り自由か、が大切。枷があるのだめなんです」。

「これはオペラから題材をとったものです」と加藤さんがデザイン・製造した木のからくりおもちゃ。カタカタと音をたて、ふたりのピエロが、くるくると表情を変えながら踊るように手足を動かした。こんなふうにした人の顔が見えるのは、大人



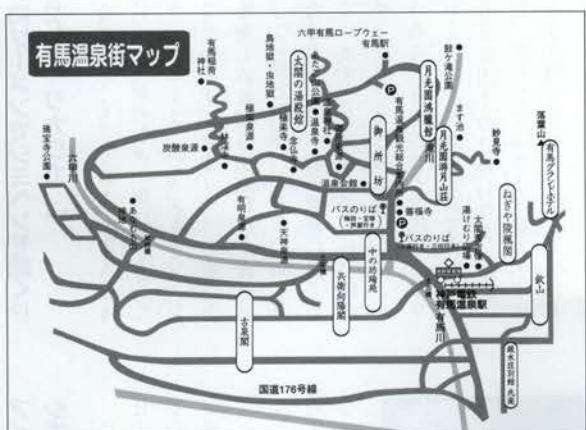
「男も女も越えていくおもちゃを作りました」と、加藤さんがデザインしたグリコのおまけ

になってからのおもちゃの楽しみだと思った。  
〈鳥羽〉

**加藤裕三さんの手作りオルゴール教室**

木製オリジナルオルゴールを作りませんか。所要時間は2時間程度、有馬観光のあいまに、自分だけのオリジナルオルゴールが完成。費用1800円  
毎週土・日曜日 10時からと13時から  
要予約

(078) 904・0894 ALI-MALLIまで



有馬での会食・宴会は懐石料理・ステーキが楽しめるいろり亭「華達」で!!  
(昼5000円～、夜8000円～)  
有馬温泉 政府登録国際観光旅館 銀水荘別館

**北楽**  
ちやうらく

TEL (078) 904-3656(代)  
URL: <http://nrjp.com/chyoraku/>

自然の恵みを湯けむりに伝える  
政府登録国際観光旅館

**古泉閣**

TEL (078) 904-0731

日本の伝統 数寄屋造りの館

**欽山**

TEL (078) 904-0701  
チェックイン13:00、アウト12:00  
ゆっくりとお過ごしいただけます。

雅たようくつろぎの館

**中の坊珠苑**

TEL (078) 904-0781  
会議セミナーからご家族づれまで  
**有馬グランドホテル**  
TEL (078) 904-0181





### カクテル片手にハスラー気分 「ピリー・ザ・ピリヤード」

三宮で静かに燃えるピリヤードブーム。トアロードに10月オープンした「ピリー・ザ・ピリヤード」は、ワンフロアに11の台が並ぶ本格派の店ながら、女性客も入りやすい明るくアットホームな雰囲気だ。料金は金土日祝の22時から翌5時のゴールデンタイムで1人1時間600円。カクテル(600円)は、メニューに載っていないものも含めて100種類と充実している。初心者向ピリヤード教室などのイベントを毎月企画しているので、気軽に問い合わせてみよう。



堂本悦次店長(中央)とスタッフのお2人

■ピリー・ザ・ピリヤード  
神戸市中央区下山手通2・13  
3 トアクワロッシング3F  
078・392・1441  
平日15:00~翌5:00  
金土日祝14:00~翌5:00  
月曜休



### 旬の厳選素材を目の前で調理 旬菜鉄板焼「雪月花」



オーナーシェフの山口さん(左)と小林さん

ホテル出身のシェフが始めた鉄板焼の専門店。素材は神戸牛はもちろん魚介類も豊富で、鉄板焼肉!のイメージとはひと味違う店。タレはスタチ酢たつぷりのポン酢と、世界一きれいな海にあるクリスマス島で作られる天然塩。この塩の独特の甘みが神戸牛の旨味をさらに引き出すそう。「とにかく味と価格には自信があります」と胸を張る山口さん。お酒の種類も多く、特にソムリエでもある山口さんセレクトの60種類のワインも楽しみ。雪コース(肉主体)5000円/月コース(魚介と肉)6000円/花コース(活魚介とフオアグラ、肉)8000円など。

■旬菜鉄板焼 雪月花  
神戸市中央区下山手通1・3・5 康新ビル2F  
078・333・7080  
17:00~23:00 月曜休



### スジ肉ソーメンでジミヘンを聴く!? 「WACA-Wakawaka」



ゆったりとしたテーブルと明るい店内、という一風変わったライブハウス

お食事とライブのお店「WACA(Wakawaka)」がセンター街にオープン。ロック、ブルース、ジャズなどジャンルにこだわらず、クオリティの高いライブを楽しみながら家庭料理が食べられる。「音楽と料理、どちらの質も落としたいくないので、音と料理にはこだわっています」と言う石若店長。料理は水ギョウザ、エビのしんじょう、スジそうめん、イカのいそべ揚げ、ドライカレーなど、どれも美味であったかい。650円の日替わりランチも。フード、ドリンクはライブDAYには全品500円になり、17時まではコーヒが200円という安さも魅力。「大人が飲めて、聴けるライブハウスです」※P85「もたか」で「WACA」のライブ情報を毎月掲載。

■WACA  
神戸市中央区三宮町1・6・28  
078・333・6768  
11:30~22:00  
月曜休



### アメリカの「ママの味」 シナモンロールの店「マウントシナモン」



ちょっぴりほろ苦いカプチーノ(300円)との相性が最高!

いま、巷で大人気のシアトル系コーヒーションアップ。なかでも南京町入口すぐのシナモンロール専門店「マウントシナモン」は要チェック! シナモンとブラックシユガーをロールしたふわふわの生地、あつあつとろりのクリームチーズ。とっても甘くて幸せな香り。こつてりなの?と思わせて、チーズの塩味が効いているから、不思議とあっさり食べちゃう。アメリカでは日曜日の朝食にママが焼いてくれる愛情たつぷりのシナモンロールが子供たちの大好物。「マウントシナモン」(350円)、「マウントミニ」(250円)、胡桃がたつぷりの「マウントオールドナッツ」(380円)もおすすめ。テイクアウトOK、電子レンジで15秒あたためるとできたての味が楽しめる。

■マウントシナモン  
神戸市中央区元町通1・1  
1新元町ビルB1F  
078・391・5667  
17:00~25:00 不定休







写真左より筆者と四代目鶴殿麻里絵さん。踊りの師弟の関係でもある

懐石料理「松酒家」

# 食は踊り

若柳吉金吾

(邦舞家)

花隈の老舗「松酒家」さんが、三宮の神戸交通センタービルに移られて、もう三年たったということです。

花隈の松酒家といえば、高級料亭として、近代日本の歴史に残る政治家や有名人などが親しく出入りしていた格式あるお店だと聞いておりました。

平成七年の震災で全壊されてから三宮に移ってこられました。

実は、この松酒家二代目女将さんと、私の義父、先代吉金吾が若柳流の同門であったことから、二代目のお孫さんにあたる麻里絵さん（四代目）が私のもとでお稽古をされており、そのご縁で何かと親しく、このお店にも通わせていただくことになりました。

新しい松酒家さんには、さすがに四代続いた老舗の格が同われます。ビルの中という条件をふまえながら、まずお店に入った時の空気が違うのです。調度品もさることながら、入ってすぐ右手に花隈から移されたお地蔵さんが祀られ



美しく彩られた秋の焼きものの盛り合わせ

ており、そのお姿を拝見しますと、このお店の歴史がしのべれます。

もう一つ、花隈時代の名残として奥のお座敷にしつとりとした日本情緒があることです。書家の望月美佐さんの壁紙にかかれた書があり、「和」のよさが味わえます。

松酒家の厨房では、四代目麻里絵さんのお父様征二朗さんが腕を振るっておられます。この方は、日本料理の最高峰といわれる高麗橋の「吉兆」で修業なさった料理人で、さすがに素材の選びかたから、味、盛付け、器の目利きにいたるまでゆきとどいておられます。

夏、一番初めのお突き出しが、胡瓜と鱧皮だったので、「この鱧皮、

おいしいですね」と申しましたら、「実はかいやの鱧皮です」と…。なかなかかいやの鱧皮など手に入りにくい品ですので、さすがにと感じました。

お料理の姿も実に小奇麗で、「吉兆」仕込みの茶懐石風、そして季節を大切にしながら調理されたものが多いです。

お昼の食事も、日本料理のエスプリのきいたもので、お値段もリーズナブル。だから若い人たちにも喜ばれ、大繁盛ということですよ。

女四代が続けてこられたお店には、一本につながった精神があります。それを大切にしながら、四代目麻里絵さんには、伝統ある松酒家の心をしっかりと包みながら、さらに進めて、今に生きる女将さんになられることを願っております。

※兵庫区のかまぼこの老舗

■懐石料理「松酒家」  
神戸市中央区三宮町1-10-1  
神戸交通センタービル9階  
☎078-333-0678  
11:00~15:00 17:00~23:00 無休  
懐石コース5500円〜







この弘道館も、徳川齊昭によって建てられた。藩校としては、全国的にみても規模が大きい。当時水戸藩が、いかに文教を重視していたかがうかがわれる。

日本タウン誌協会共同企画  
編集長おすすめの旅 茨城県

# 時代を超えて、 徳川家の時代に タイムスリップしてみよう



月刊みと  
編集長 十津川 良子

「編集長おすすめの旅」は、日本タウン誌協会(事務局・月刊神戸っ子)の会員47社の各編集長が順番に執筆。

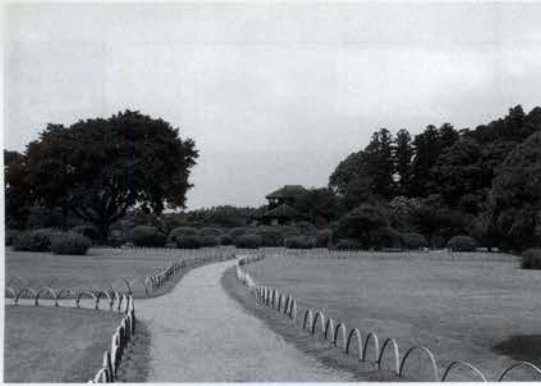
「頭が高いーひかえおろうー」というキメ台詞を聞くたびに、水戸市民としては少しだけこぼれ気持になってしまう、あの長寿番組「水戸黄門」。私たちにとって、水戸黄門光圀は、TVの中の登場人物である以上に、生活に密着した馴染み深い人物である。というのも、市内を歩くと、偕楽園、弘道館、義公生誕の地など、あちこちで徳川家の歴史の足跡に出会い、実際に彼らの息吹を感じることができるのだ。折しも、今年、水戸徳川家第2代藩主、徳川光圀の没後300年。そして、第9代藩主、徳川齊昭の生誕200年を迎え、光圀や齊昭に因んだ記念イベントが県内各地で開催され、水戸市をはじめ、茨城県は大きな盛り上がりを見せている。題して、「光圀公没後300年・齊昭生誕200年の出会い」。さあ、時代を超えて、ちょっとタイムスリップしてみよう。

**ま**ずは、茨城県を存分に堪能できる「黄門様のお気に入り街道」スタンプラリーに出发！黄門様ゆかりの地を巡る全6コースがあり、スタンプポイントを求めてコースをたどれば、県内のおすすめスポットを、くまなく廻ることができるというわけだ。

例えば、(陶芸と納豆と歴史探訪街道)

コースの場合、まず水戸市を出发して、お隣のひたちなか市へ。一方で、ひたちなか市は、続く大洗町とともに海水浴場のメッカとして、若者や家族連れで賑わいを見せることでも有名である。大洗も、海水浴だけでなく、大洗マリントワー、大洗水族館、そして薬湯が楽しめる大洗ゆっくら健康館など、い





徳川齊昭によって造られた偕楽園。「民と儲に親しむ」という目的で作られたここは、現在もその理念どおり人々の憩いの場として、無料で開放されている。

ろいろな楽しみ方ができる町である。

その後コースは茨城町、岩間町を経て、笠間焼の里、笠間へ。最近、茨城県陶芸美術館、笠間工芸の丘といった陶芸施設も充実して、ますます注目を浴びているスポットだ。多くの窯元を抱える笠間市内では、見学・買い物だけでなく、陶芸体験のできる施設がたくさんあるので、ぜひ自分だけのうつわ作りにチャレンジしてみよう。そうそう、それぞれのコースで、ポイントごとに設置されているスタンプを3か所ためれば、素敵な賞品が当たるといふキャンペーンに応募できるので、コース終了の際には、忘れずに応募しておこう。

あちこち見て廻った後は、やっぱり「食ッ！」ということで、「いばらき味絵巻 彰往考来」キャンペーンを案内しよう。実は、日本で初めてラーメンを食べたのは、黄門様である、と言われているくらい、食には好奇心旺盛だった徳川光圀。今回の企画は、徳川齊昭が編纂した水戸徳川家の料理本「食菜録」をもとに、県産品の使用を基本に、現代風アレンジを加えて料理を再現している。これらは、県内の旅館やホテル、飲食店等で食べることができる。当時のお殿様が、意外に、ハイカラなものを食していたことに、ちよつと驚

くかもしれない。

お腹が満たされたら、今度は映画鑑賞に行ってみよう。水戸市や県内ゆかりの市町村において、「水戸黄門記念映画祭」と称して、昭和時代に劇場公開された映画「水戸黄門」を無料上映しているのだ。月形竜之介、森繁久弥、美空ひばりなど、豪華キャストで繰り広げられる、昭和時代の「水戸黄門」映画。ぜひ、家族連れで楽しんでほしい。茨城県近代美術館をはじめ、公民館、野外スクリーンなどでも予定されているので、日時などの詳細はお問い合わせを。

さまざまなイベントを紹介してきたが、他にもまだまだ予定されている。秋の味覚を満喫できる「黄門様のふるさと 食・工芸体験ツアー」は、宿泊型の広域観光ツアーだ。これらの企画と同時に、県内の観光施設で、料金割引や優待などの特典がついたパスポートが使える「漫遊いばらきファンクラブ」が設立されている。これは、県内を廻る際には、おすすめのパスポートである。

実際の徳川光圀は、TVの黄門様のように、全国を旅した事実はないが、藩内の隅々まで歩き、各地に心温まるエピソードを残している。そんな歴史の一コマに触れることのできる茨城の旅、ぜひこの機会にどうぞ。



JR水戸駅前にある、「水戸黄門助さん格さん像」。これはTVのイメージの水戸黄門である。

茨城県観光物産課029-301-3622  
茨城県観光協会029-226-3800



**CINEMA** 第5回神戸100年映画祭  
「英国映画特集」

かのシェイクスピアを生んだ歴史ある国、英国の映画を特集。なかでも炭坑夫によって結成されたブラスバンドの友情と音楽への愛を描いた「ブラス！」は、映画ファン、音楽ファンならずとも必見（11/22上映）。ケネス・ブラナーの「ハムレット」をはじめシェイクスピア特集等6日間にわたり約18本を上映。11/12～16は淀川長治メモリアル。

11/11(土)・19(日)～23(祝)  
神戸朝日ホール(大丸から東へ50m)  
100年映画祭3回券2500円 1回券1000円(当日1200円)  
チケットぴあ、神戸文化ホール内プレイガイド、海文堂書店2F他で発売中  
神戸100年映画祭実行委員会事務局 ☎078-232-3281  
※くわしい上映時間等は事務局またはインターネットで <http://www.jin.or.jp/kobe/kff100>



11/21上映のシェイクスピアの恋愛喜劇「十二夜」

**F** 国際ファッション・フェスティバル  
ASHION モードの新世紀

世界の一流アーティストの最新作品が一堂に集結する国際ファッション・フェスティバルが、神戸を皮切りに全国で開催。前回よりもさらに規模を拡大した今回、衣装・写真・映像の展示上映のほか、メイクアップ・ショーやヘア・ショーなど数々のライブイベントを実施。刺激的な最新モードが日本に上陸する！



© Peter Lindbergh

11/16(木)～1/8(月・祝)  
11:00～18:00(金曜日のみ～20:00) 水曜休  
一般800円 小中高生、シニア600円  
神戸ファッション美術館(六甲ライナー「アイランドセンター」駅下車すぐ)  
☎078-858-0061

**P** モダンダンスリサイタル  
LAY 「第7回藤田佳代作品展」

200年前、蕪村が詠んだ句をとおし、神戸をうたう新作「神戸・蕪村」。千秋次郎作曲、南和好が舞台美術を担当し、歌に竹本節子、さらに特別出演として東伸一矩を迎え、まさに音楽・美術・舞踊の3方面から、神戸で生まれた舞台を作り上げる。「震災から6年、思いをこの世に残して旅立った人々への同感の気持ちと私なりの回答を踊りにしました」と藤田佳代は語る。



8/5創作実験劇場で初演のジャズをモチーフにした「時の変容」

11/28(火)19:00開演  
神戸文化ホール(地下鉄「大倉山」駅下車すぐ)大ホール  
一般前売4500円(当日5000円) ベア券8000円 高校生以下3500円(全席自由)  
藤田佳代舞踊研究所 ☎078-822-2066

**MUSIC** 第26回女声アンサンブル エコ・エレガント リサイタル  
「サロンコンサート風に」

秋の空のようにさわやかな女声アンサンブル「エコ・エレガント」の12月のリサイタルは、「サロンコンサート風に」と題し、ブリテンの「キャロルの祭典」、中田喜直作品集のほか、ポピュラーソングを演奏。12/17(日)にはクリスマスよせて「Rokko Promenade Concert」が六甲幼稚園にて。



彼女たちのアットホームな歌声を聴きにこう

12/3(日)14:00 みつなホール(阪急「川西能勢口」駅徒歩5分)  
12/10(日)14:00 岡本好文園コミュニティホール(阪急「岡本」駅下車徒歩3分)  
両日とも2000円  
お問い合わせ ☎078-242-3182(米良)



# MUSIC

2000神戸フロイデ合唱団33回公演

## 交響曲のタベ「ベートーヴェン 第九」

創世・そして未来へ！ 神戸に響け！ 人間復興のハーモニー！ 半世紀にわたり神戸市民とともに築きあげた「神戸フロイデ合唱団」の第九は、20世紀最後の第九にふさわしい。指揮は亀井正比古。歌うことの好きな人なら誰でも参加できる市民手づくりのフロイデ合唱団では2001年7月の公演にむけ合唱団員を募集中。

12/7(木) 19:00開演

神戸文化ホール(地下鉄「大倉山」駅下車すぐ) 大ホール  
A席4900円 B席4500円 C席4000円  
神戸フロイデ合唱団 ☎078-391-2613

チケットプレゼント



# MUSIC

~11月~

### ★チキンジョージ ☎078-392-0146

9(木) KEMURI、10(金) 吉田美奈子&THE BAND、11(土) EDDIE, BUKEN&SHO、12(日) ORIGINAL LOVE、14(火) PRYME TIME、16(木) フラワーカンパニーズ、17(金) 近藤房之助、19(日) 南風人まーちゃんバンド、22(水) 山弦、23(木) チキンガーリックステーキ、24(金) 野獣王国、25(土) Lamuse-mieux、26(日) サイコデリシャス、27(月) GRANITE HOUSE、29(水) ザ・コブラツイスターズ/ノナ・リーヴス、30(木) 本田雅人

### ★ピアジュリアン ☎078-391-8081

9(木) 高橋乗子(voc) 近藤美香(p)、10(金) 中井亮子(p)、11(土) 沼田陽一(fl) 藤溪優子(p)、12(日) 辻本恵子(p)、13(月) 小笠原薫(vn) 清水道代(p)、14(火) 武村美穂子(fl) 山本朋子(hp)、15(水) 西本淳(sax) 濱長良美(p)、16(木) 近藤美香(p)、17(金) 鈴木華重子(p)、18(土) 寺内智子(sp) 袖野亜希子(p)、19(日) 高橋智子、20

(月) 小笠原薫(vn) 清水道代(p)、22(水) 西本淳(sax) 濱長良美(p)、23(木) 中井亮子(p)、24(金) 折川真理(vn) 中元智子(p)、25(土) 原公一郎(g)、27(月) 岩国晃子(cd) 佐藤裕美子(p)、29(水) 西本淳(sax) 濱長良美(p)、30(木) 近藤美香(p)

### ★Holly's ☎078-251-5147

10(金) 長井美恵子(p) トリオ、11(土) 藤村麻紀(vo) 大内玲子(p) 小出恭正(b)、15(水) 新田佳子(vo) たくみゆか(p)、17(金) 畑山紀美代(vo) 原田耕自(p) 川上隆幸(dr)、23(木) 原田耕自(p) トリオ、25(土) 池田奈央(p) 吹田善仁(b)、29(水) MID-NIGHT-EXPRESS、30(木) 宮下博行(p) 西垣昌也(b) 高野正明(dr)

### ★T2楽屋 ☎0798-242-5888

11(土) 田頭スーパープロジェクト/センドアンド リターン、14(火) 横井勝巳、15(水) KAJA、16(木) Jun with 光太郎、18(土) モーニングアフターガンボ/サザンブリード、19(日) 中村よおwith中川みつお/ヒアカム六甲ユニット/増田俊郎/モーガンズバー/シェリフ他、20(月) 高村コウタロー、21(火) ロメル・アマード、22(水) 坂本昭二、23

(木) 田谷真理子JAZZ教室、24(金) 黒台ケイコ、26(日) SUNDAY NIGHT天西ブルースライン

### ★アイローリボン ☎0798-34-2872

11(土) シン・上田&Trackers、12(日) Liverpool、16(木) MatchVox、17(金) DaddyBoysClubBand、18(土) Kenworth、19(日) Stampede、23(木) xPapas&Honey、24(金) 45RPM、25(土) Fool'sSilver

### ★萬屋宗兵衛 ☎078-332-1963

11(土) FIVE SOUNDS、17(金) 溝口恵美子(vo) 浜村昌子(p)、24(金) 「965の会」玉川侑香・歌と詩の朗読、25(土) SO LONG、26(日) MapleLeafSwing、29(水) 福島岩雄とGentlemenJumpTheBlues

### ★WACA? ☎078-333-6768

11(土) KOUTARO(g, vo)、14(火) ACCIDENTALS、18(土) MASH、24(金) KAJA(g, vo)、25(土) ロメル・アマド(g, vo) 島田和夫(dr)  
12/2(土) KOUTARO(g, vo)、9(土) 45RPM、16(土) 天野SHO、19(火) チャーリー・コーセー

# TICKET PRESENT

<MUSIC>

★12/16「北野タダオ & アローゼ ジャズオーケストラ」

(神戸新聞松方ホール) ヘア1組

★12/7「神戸フロイデ合唱団交響曲のタベ」

(神戸文化大ホール) ヘア2組

<CINEMA>

★バルシネマしこうえん

(12月末まで有効) 2名▽11/10「オール・アバウト・マイ・マザー」[サイダーハウス・ルール]▽11/11~20「エリン・プロコピッチ」[ハリウッド・ミュージック]▽11/21~27「レインディア・ゲーム」[ロミオ・マスト・ダイ]

★シネモザイク1~4

(12月末まで有効) 2名▽1▽「インビジブル」▽11/中旬~「悪いことしましょ」▽12/16~「シックス・ディ」▽2▽11/中旬~「チャーリーズエンジェル」▽3▽

11/3~「世にも奇妙な物語」▽12/16~「ゴジラ2001」▽4▽「ナッティ・プロフェッサー2」

★ベレーネシネマ・カナートホール(12月末まで有効) ヘア5組▽11/10「博多ムービー・ちんちろまい」▽12/初旬「世にも奇妙な物語」▽11/11~12/8「ことの終わり」(神戸独占上映)▽11/11~24「アレクサンダー戦記」(神戸独占上映)▽11/25~12/8「きかんしゃトーマス」▽12/9~26「顔」

★西灘劇場

(12月末まで有効) ヘア5組▽11/14~17「シュウシュウの季節」[太陽はぼくの瞳]▽11/18~12/1「アメリカン・パイ」[アシッド・ハウス]

●ハガキかFAXで①希望するチケット②氏名③郵便番号④住所⑤年齢⑥職業⑦電話番号⑧9月号でもおもしろかった記事とその理由を明記して下記まで(11/30必着)。

〒650-0011神戸市中央区下山手通2-13-3建創ビル4F

(FAX078-331-2795) 月刊神戸っ子「もだかる0011」編集室

# MODE CULT'S VOICE

まずはおわび！ 10月号にて応募が切日がまちがっておりました。すみませんでした。(それでもご応募くださった垂水区のNさん他の方、ありがとうございます... 基本的に発行月の

月末が切です。また今月から編集室の住所も変わっているのをご注意。

●あまり遠くへは行けないのですが、神戸っ子の「うまいもん」とか「百店会」マップ等を見て、昔よく行っていた名店も今は息子さん、娘さんとお年を加えて、小学校時代に存じ上げていた方が有名人になっていらっしゃるのがよくわかり、なつかしく感じ、楽しみに読んでいます。中央区・船谷さん ●先日NHKの番組で神戸弁の募集をしていました。神戸で生まれ、大阪で大きくなったので、神戸弁であるなあと思っていました。「~とう」とか、男の子が「ダボツ」と言うのが...。住んで10年です。自然と「~とう」と言う自分が好きです。

中央区・元木さん

○「ダボ」!? それ聞いたことないです！ どんな活用するんですか。まだまだ私の知らないディープな神戸があるんだなあ。(担当者は長野県出身)